

— 気象庁による震度検定に合格した小型地震計の販売開始 — 小型地震計「ACCURA」の販売を開始いたします。

応用地震計測株式会社では、手のひらサイズのコンパクトなボディに計測部と収録部が組み込まれた震度計として必要な機能を搭載した小型地震計 ACCURA を開発、2020年3月に気象庁の震度検定に合格し、最小最軽量な計測震度計としての認定を受けました。

<主な特長>

1. データ収集や計算処理で必要だったロガーや PC が不要

これまでデータ収集や計算処理で必要だったロガーや PC が不要で、本体のみで地震（震度）観測が出来るすぐれものです。また、イーサネット経由でサーバーへのデータ送受信もでき、計測震度情報ネットワークとしての構築・運用など通信の利便性が高い性能を保持しています。

2. 気象庁が規定する計測震度計としての機能を内蔵

3成分加速度計、マイクロ SD メモリ、Wi-Fi 通信、バックアップバッテリー、計測震度演算プログラムなど気象庁が規定する計測震度計としての機能を内蔵しています。

3. 低価格化を実現

従来の気象庁認定の計測震度計の価格の 1 / 4 を実現しました。（弊社製品比較）。

4. 手のひらサイズのライトでコンパクトなボディ

ACCURA は、130(L)×65(W)×50(H)mm 重量：350g の小型軽量。

<特徴補足>

※1：大地震時では停電が発生する可能性が高い。バックアップバッテリーを内蔵することで、外部機器に頼らなくてもデータの欠測や余震観測もカバーできます。

※2：複数の地震計から同時に大量な波形データが、一度にサーバーに送信された場合、通信負荷やサーバーに負荷が生じます。情報ネットワークが発達してはおりますが、大地震時の輻輳問題が 100%起こらない可能性は低いため、地震計側でリアルタイムに振動情報（震度・最大加速度など）を演算し、コンパクトな情報に圧縮することで、地震時にも情報落ちの可能性が少なくなります。

※3：記録方式の二重化を実現することで、大量なデータからの情報抽出のスピーディーさと、データ欠損への懸念点を相互に補うことができます。

※4：NTP や同期ケーブルで、構造物観測やエリア観測など複数台を使用する状況下でも、時刻の同時性を維持することができます。